

## 北海道エゾシカ管理計画（第6期）素案（案）の概要

## ■ 経緯・趣旨

- 誤射による死亡事故の発生を受け、関係者が連携して銃猟安全対策の徹底に向けた取組を実施
- 狩猟による捕獲数の大幅な落ち込みにより、平成30年以降の捕獲頭数は11万頭程度と減少傾向
- 農林業被害額は39億円程度と依然高水準で推移
- 捕獲したエゾシカを食肉等として有効活用する取組が着実に進展



「適正な個体数管理」と「捕獲個体の有効活用」をエゾシカ対策の両輪として推進

## ■ 計画期間

令和4年4月1日～令和9年3月31日 の 5年間

## ■ 主な変更点

- 生息状況や人間活動との軋轢などの実態を踏まえ、地域区分を変更（西部を北部と中部に分割）
- 【計画対象地域】
- ・ 東部地域（オホーツク、十勝、釧路、根室管内）
  - ・ 北部地域（空知、上川、留萌、宗谷管内）
  - ・ 中部地域（石狩、胆振、日高管内）
  - ・ 南部地域（後志、渡島、檜山管内）
- 地域ごとの個体数指数を比較しやすくするため、基準年を平成23年度に統一
  - 地域ごとに個体数の管理水準において新しい目標を設定する中で、東部は第6期計画期間中に、北部・中部（旧西部）は第7期計画期間中に、大発生水準以下とする目標を設定し、捕獲を推進
  - 東部地域においては、持続的な資源利用を見据えた個体数管理を目指し、管理水準を変更

## 【地域別の管理水準】

管理水準	東部地域	北部・中部地域	南部地域
大発生水準	個体数指数 50	個体数指数 50	個体数指数を 減少に 転じさせる
（暫定）目標水準	【目標水準】 個体数指数 37.5	【暫定目標水準】 個体数指数 25	
管理下限水準	個体数指数 25		
絶滅回避水準	個体数指数 5	個体数指数 5	

- 資源利用としての位置づけの明確化、方向性の明示
- 各種制度の積極的な活用により、最大限の捕獲数確保
- 捕獲推進プランと市町村被害防止計画の整合性を図り、実効性を高める旨を明示
- 安全の確保（特に、銃猟における事故防止の徹底）についての位置づけを項目化
- 東部地域における被害防止、資源利用の観点から、個体数管理における合意形成を目指したモデル化の検討

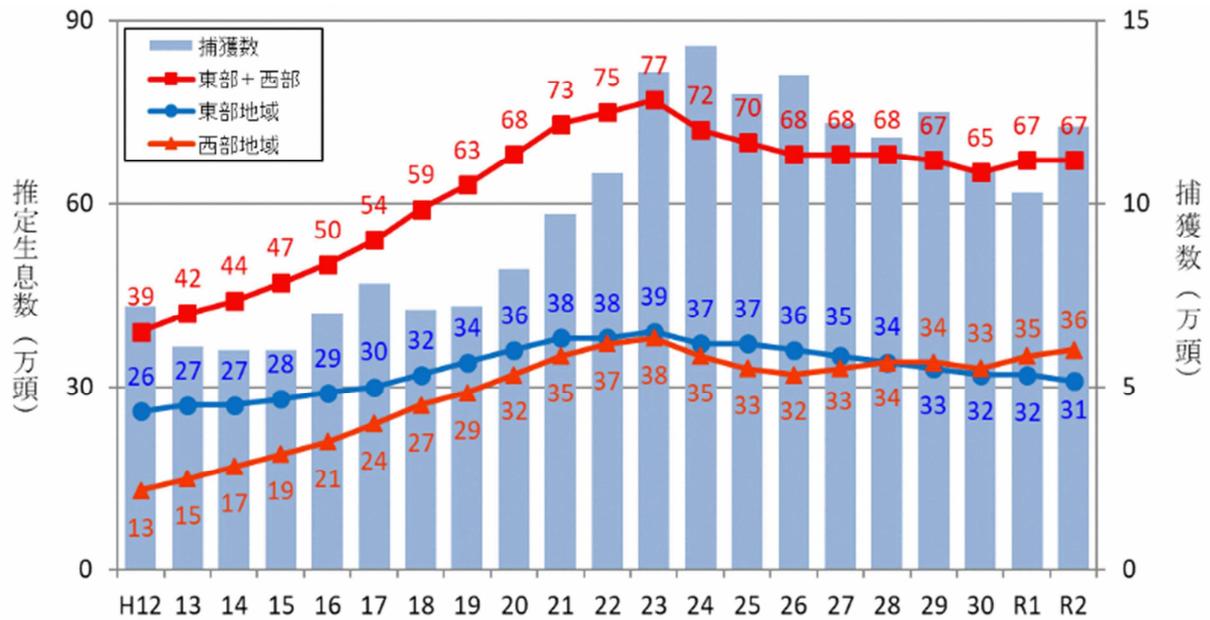
【参考】北海道エゾシカ管理計画（第5期）の主な実績

1 個体数の管理

・個体数指数

地域	第5期目標(R3)	R1実績
東部	50以下	128
西部	150以下	257
南部	減少へ	一貫して増加傾向

・推定生息数及び捕獲数

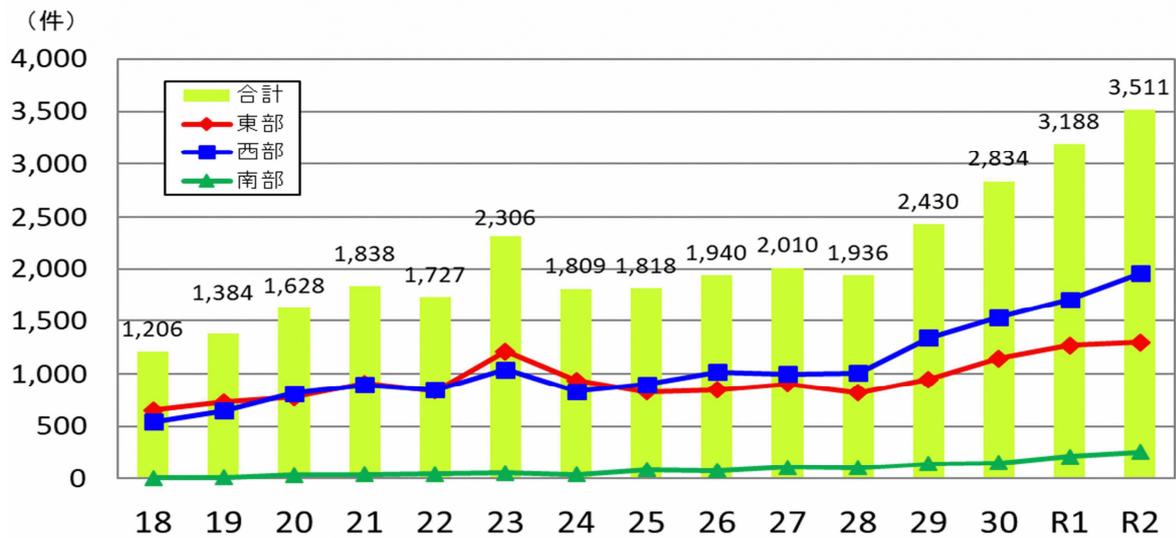


2 農林業及び生活環境に係る影響

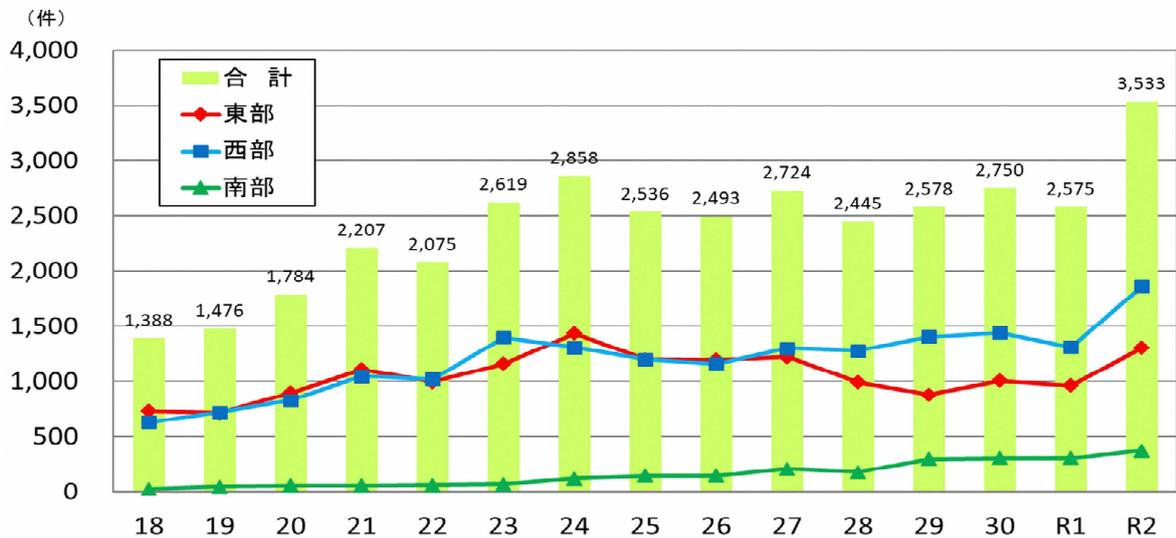
・農林業被害額



・交通事故発生件数



・列車支障件数



【東部】 花咲線・釧網本線・根室本線（新狩勝～釧路）・石北本線（奥白滝～網走）  
 【西部】 根室本線（滝川～新狩勝）・札沼線・室蘭本線（小幌～室蘭）・宗谷本線・石勝線・石北本線（新旭川～奥白滝）・千歳線・日高本線・函館本線（ほしみ～旭川）・富良野線・留萌本線  
 【南部】 海峡線・道南いさりび鉄道・室蘭本線（長万部～小幌）・函館本線（函館～ほしみ）

3 有効活用の推進

・エゾシカ肉処理施設認証施設数

